



NO. 767
 発行
 12・10月20日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 関川 和彦
 編集責任者
 教 宣 部

組織拡大と労働条件改善へ

第65回定期大会開く 国労新潟地本

第65回定期地方大会が10月6日
 地本事務所で開催されました。
 今年の大会は、旅客会社の検修
 外注化が実施され職場の労働環境
 が大きく変わったことから、職場
 の労働条件改善の問題を中心に代
 議員11名から発言がありました。

議長に 近藤代議員

上石副委員長の開会あいさつで
 スタートし議長には新潟県支部の
 近藤代議員を選出しました。



その後、関川委員長のあいさつ・
 来賓のあいさつ・国労東日本本部
 から松井書記長のあいさつと続き
 方針案の提起・財政からの報告・
 提案があり、質疑・討論に移りま
 した。



全体の意見

○出向・外注化・旅客会社から出
 向解除し貨物会社へ一旦戻って鉄
 道サービスへ出向となった。10月
 1日スタートが遅れると思ってい
 た。2回会社、説明会があった。現
 場では社員の質問に対し答えら
 れない状況だ。仕業検査を担当し

関川委員長 あいさつ



JR不採用事件が終結し地方本部でも確認した。今後、
 国鉄闘争を総括し地本としてどのように国労運動を進めて
 いくのか全体で議論していかなければならない。

労働条件改善の闘いについて、職場の実態など厳しい状
 況が続いている。雇用形態が正規・非正規・契約社員・パート
 と複雑化している。どう改善していくのか。職場・地域
 へあらゆる運動と結合して発展していこう。これを組織拡大
 につなげていくこと。第81回全国大会でも組織拡大を
 最重要課題として取り組んでいくことが意思統一された。
 新潟地本においても運動を作っていこう。

地域の闘う仲間と連帯し共有・共通する闘いについて共
 同で取り組んでいこう。JAL争議団の闘い、脱原発の闘
 い、平和の取り組みなど多くの課題がある。民主党政権は
 国民不在の政治だ。新たに国民の命と暮らしを守る闘いを
 進めていく。

本大会で、真摯な討論で方針書に肉付けをしていただ
 きたい。



ているが、それ以外はやらない契
 約内容になっていく。朝、電車の
 転線があり電車から異音があるの
 で検査の要請があったが、この場
 合は対応が適切ではない。現場は
 混乱している。各職場でアンケ
 ト調査を実施、偽装請負になって



いないか、他労組との対応など10
 月1日以降、どう変わったか調査
 していく。
 ○鉄道サービスへ出向している。
 今年、5月に人事課から60歳以降
 どうするか連絡があった。エル
 ダーをやめるかどうか・年金満額
 支給まで雇用の確保。
 新潟車両センターでは、20歳代
 は、出向が終わってから帰る職場
 があるのか不安をもっている。こ
 れから職場で職場で運動をつく
 ていくのか議論している。

職場の作業ダイヤについて、入
 替え作業などダイヤどおりに作業
 している。以前は裏ダイヤだった。
 他労組とも、この問題について話
 し合っている。不安・不満など要
 求を地本へ集中させて解決してい
 く。各出向先に労働組合があるが
 それぞれの組合での団体交渉はど
 うなっているのか。グループ会社
 ごとに労働条件は違っている。JR
 並の労働条件に改善していく。





国労東日本本部 松井書記長 あいさつ

JR不採用事件の終結で、組織拡大が重要課題となってきている。今後の組織について、国労としてどうあるべきか、運動をつくっていく。組織は求心力があって拡大へつながっていく。運動を進めていく中で拡大が達せられる。

工務の交流会を開催～職場からの意見で所長が、職場は日本一と自慢する保技セで社員は76名で国労がそのうち17名。日本一と言われる職場でも直轄が76名しかいない。JR東日本は25年前、82500名だったのが現在は、57000名（鉄道関係従事者41000名）JR東日本関連会社も含めて11万人の中で鉄道関係の従事者は、1/3以下になっている。

分割・民営化で学んだこと～弱者を弱者の目線で助ける。契約社員などいろんな雇用形態の人たちの労働条件改善に軸足を置いた闘いを進めていく。グループ会社への労働条件改善に向けて取り組んでいく。拡大を含めグループ会社で取り組みを展開していく。

労働協約は、2年前にさかのぼって議論してきた。25年のJR不採用事件から、つながっている。労使正常化～全事件の和解で一括和解し、そこから労使正常化へ、そして労働協約となった。労働協約を運動に生かしていくことなど、2年間議論してきた。

新人事賃金制度が4月1日導入された。非常に難解な制度になっている。会社は労使関係でなく、会社と社員としての立場にしたい考え。社員間の競争をおおっている。パツキは号俵が無いので金額として500円から。各地方へ調査活動を要請。検修外注化が10月1日からスタートした。直轄だけでなくグループ会社への労働条件改善を求めて闘いを進めていく。

10月中旬になり気温もぐっと低くなりました。今年の夏は猛暑で暑さが続き、山は色づき始めるのは遅くなるみたいです。
今年には熊が出て大変です。キノコシーズンに入っていますが心配ですね。最近山へは登っていませんが運動不足解消に、たまには、登りに行かないと考えていました。
定期大会でレクレーションの企画をと発言がありました。11月9日にゴルフ大会が開催されます。
いろんな企画などあると思います。地本教宣部まで、お寄せください。
次号も地本大会の記事を記載します。全体の意見・書記長集約など予定しています。

○外注化が提案されて2年、会社は強行した。シニア制度について外注化は高齢者の再雇用を考えて制度化したのが破綻されているのではないのか。10月1日、検修外注化され現場職場の実態が報告されている。

偽装請負など問題点、検修外注化から偽装請負が発生している。そのことについて申告していくか、地本として明確にしていくこと。
検修外注化について職場でピラを配布した。他労組が集会を開催していたのでピラを受け取った。外注化について若い社員は不安を抱えている。50・60歳代でも外注化について反対の立場を貫いていくこと。
国労本部の訴訟関係について報告してほしい。裁判所の傍聴を希望したが席が無いと本部から報告があった。解雇された組合員に対しての本部の考え方・JRと雇用関係が無くなれば組合員資格がない。以前はそんなことは無く、組合員として闘ってきた。国労の歴史を塗り替えることはしてほしい。そのことが労働協約締結につながっていくのではないのか。
企業内組合など含めて総合労働協約となっている。会社側は企業内組

代議員・傍聴者からの職場の問題について発言がありました。大会は最後に、関川委員長の団結がんばろうで15時頃終了し、会場を変えて全体で懇親会を開催しました。全体の意見は次号も続きます。



合になってほしいといっている。労働協約は労使共同宣言が形を変えて労働協約締結となったのではないのか。ガレキ輸送が始まるが放射能検査はやるのか。

編集後記

各支部から8名地方委員が選出されました。

- ★新野 徹
- ★佐藤 昌典
- ★長部 晃
- ★玉木 敏晴
- ★福富 雅彦
- ★近藤 努
- ★大塚 公一
- ★佐藤 透

